

平成28年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	国際統計協会分担金			担当部局庁	政策統括官(統計基準担当)			作成責任者			
事業開始年度	昭和元年度以前	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	政策統括官(統計基準担当)付国際統計管理官室			国際統計管理官 榎田 直木			
会計区分	一般会計										
根拠法令(具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第84号			関係する計画、通知等	国際統計協会規約、会費支払い請求通知						
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費						
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	オランダに本部を置く「国際統計協会」は、国際的な活動と協調の推進を通じて統計手法の改善等を目的とした国際機関(非営利団体)である。同協会には、主要な先進国をはじめ、各国の統計部局長が職務会員として加入し、同協会の活動を支援している。政府の公的統計を所管する当省は、同協会が開催する国際統計協会大会に出席し、我が国の統計に関する情報発信を行い、世界の統計水準の向上に寄与するとともに、同大会で最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に貢献するものである。										
事業概要(5行程度以内。別添可)	国際統計協会は、各国の分担金により維持されており、国際統計協会の活動を通じて、世界各国の統計技術の開発、改善に寄与している。また、我が国の公的統計制度を所管する当省は、毎回、国際統計協会大会に積極的に参加し、発表等を行っており、我が国の統計に関する情報発信を行うとともに、同大会で最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に貢献している(なお、これまでに3回、我が国においても、国際統計協会大会が開催されている。)										
実施方法	その他										
予算額・執行額(単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
	予算の状況	当初予算	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2				
		補正予算	0	0	0	0					
		前年度から繰越し	0	0	0	0	0				
		翌年度へ繰越し	0	0	0	0					
		予備費等	0	0	0	0					
	計		0.2	0.3	0.3	0.3	0.2				
	執行額		0.2	0.3	0.3						
執行率(%)		100%	100%	100%							
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	国際統計協会大会に参加し、1回以上、論文発表等を行う。		国際統計協会大会における論文発表等回数		成果実績	回	4	-	2	-	-
					目標値	回	1	-	1	-	1
					達成度	%	400	-	200	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載										□チェック	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	国際統計協会大会への参加回数			活動実績	回	1	-	1	-		
				当初見込み	回	1	-	1	-		
単位当たりコスト	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	予算額(二年分)/大会参加回数 (大会は隔年で開催されるため、二年分の分担金を単位当たりのコストとして算出)			単位当たりコスト	百万円	0.5	-	0.6	-		
				計算式	予算額(二年分)/大会参加回数	(0.2+0.3)/1	-	(0.3+0.3)/1	-		
平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目		28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	国際統計協会分担金		0.3	0.2	要求レートの変動による減額						
	計		0.3	0.2							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策									
	施策									
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 年度	
		実績値	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	-									
	改革項目	分野:	-							
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
目標値		-	-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-	-		
	達成度	%	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	主要各国の政府統計の代表が参加しており、我が国からは、公的統計制度を所管する当省が参加し、世界の統計水準の向上に寄与するとともに、最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に寄与するものである。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	-		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	主要各国の政府統計の代表が参加しており、我が国からは、公的統計制度を所管する当省が参加し、世界の統計水準の向上に寄与するとともに、最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に寄与するものである。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	統計手法や技法の開発・改善を国際的な立場で推進する団体は国際統計協会以外に存在せず、会費は、同協会の運営のための経費として課されているものである。	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-		
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	統計手法や技法の開発・改善を国際的な立場で推進する団体は国際統計協会以外に存在せず、会費は、同協会の運営のための経費として課されているものである。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	各年とも成果目標を達成している。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	各年とも見込みに見合った活動実績を達成している。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	同協会が実施する会議に出席し、最新の統計情報を交換することは、世界の統計水準の向上に貢献するものであり、我が国の統計の体系的整備を行う上でも有用なものとなっている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-		
	所管府省・部局名	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	我が国が各国の統計関係者との交流を深め、また最新の統計情報の入手、我が国の情報発信を図るため、国際統計協会に継続して加入することは必要である。 平成27年7月にブラジル・リオデジャネイロで開催された第60回国際統計協会大会には総務省職員が参加し、以下のテーマでプレゼンテーションを行い、我が国の統計調査の実施状況や課題等について説明を行うとともに、各国及び国際機関の関係者と意見交換を行った。 <総務省職員発表テーマ> ・Application of an alternative method for compiling business demography statistics of establishments ・New challenges to Promote Use of Statistics in Japan -Toward the Creation of Higher Value by Utilizing Official Statistics-		
	改善の方向性	国際統計協会を活用して、世界の統計水準の向上へ寄与するとともに各国からの意見や最新情報を入手し、我が国の統計の体系的整備への一層の貢献等を促すため、同協会の大会においては、我が国の公的統計作成の上で重要な課題、又は国際的に共通すると思われる課題等を積極的に取り上げてプレゼンテーション等を行うよう努める。		

外部有識者の所見

外部有識者による点検の対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

引き続き適正な予算執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

条約等に基づくものであるため。

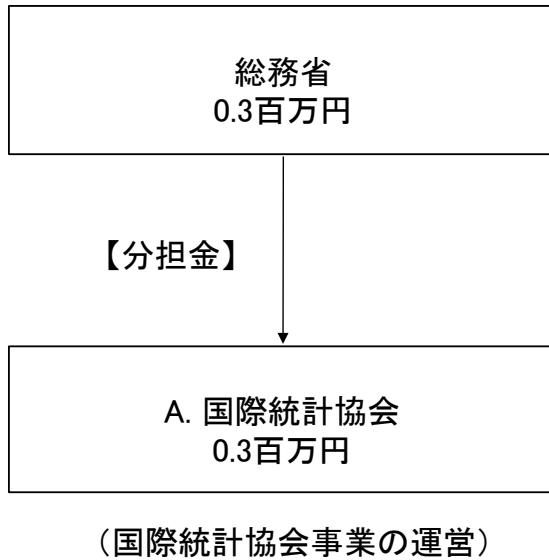
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	1-3	平成23年度	0003	平成24年度	0003	/
平成25年度	0173	平成26年度	0164	平成27年度	0160	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.国際統計協会			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
分担金	国際統計協会事業の運営	0.3			
計		0.3	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

